

今週の内外株式市場の下落について ロシアによるウクライナへの実力行使でリスクオフ

2022年2月24日

ミンスク合意の破綻で、ロシアと欧米等との妥協点が不透明に

今週の国内外の株式市場は、総じて連日下落しています【図表1】。もちろん下落の要因は、ウクライナ情勢の悪化です。プーチン・ロシア大統領が21日（現地）、親ロシア派武装勢力が実効支配するウクライナ東部の一部地域の独立を承認する大統領令に署名したことで、軍事紛争リスクが強く意識されるようになりました。さらに、24日にプーチン大統領がウクライナ東部での軍事作戦を決定し、ウクライナへの攻撃が開始されたと報じられると、アジア株の下落が加速しました（欧米株は取引開始前）。

ロシアの狙いは、ウクライナがNATO（北大西洋条約機構）に加盟した場合などに、ロシアとNATOが国境を接しないような緩衝地帯を設けることにあると考えられ、強気の行動の背景にはクリミア併合の実績があるでしょう。しかし、ロシアと蜜月状態だった中国が今回のロシアの行動に対しては距離を置く模様であるほか、原油価格上昇時には堅調となる傾向のあるロシア株式・通貨が、足元は急落し【図表2】経済不安が意識されるなど、ロシアにとっても軍事紛争を長期化しづらい状況が存在します。

したがって、最終的には何らかの外交的妥協を探る動きが強まると考えられますが、本来であれば交渉の起点となるべきミンスク合意（停戦やウクライナ東部の一部地域の自治などについて2014-15年にまとめられたロシアやウクライナ等による合意）が破綻しており、交渉の糸口や落とし所が非常に不透明になっているため、株式市場では当面、投資家のリスク回避姿勢が強まった状態が続きそうです。

図表1：日米欧株価指数の推移（前営業日比）

(%) (2022年2月21日～2022年2月24日)

国	株価指数	2/21	2/22	2/23	2/24
日	日経平均株価	-0.78	-1.71	休場	-1.81
	TOPIX	-0.71	-1.55	休場	-1.25
	米	NYダウ	休場	-1.42	-1.38
米	S&P500	休場	-1.01	-1.84	---
	NASDAQ総合	休場	-1.23	-2.57	---
英	FTSE100	-0.39	0.13	0.05	---
独	DAX	-2.07	-0.26	-0.42	---
仏	CAC40	-2.04	-0.01	-0.10	---

※欧米は2/24が取引終了前のため2/23まで

(出所) ブルームバーグ

図表2：ロシア株・通貨と原油価格

(2019年1月初～2022年2月23日) (ルーブル/米ドル)



※RTS指数とWTI原油先物価格（第2限月）は2019年1月初=100として指数化

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。